

平成30年度
第3回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化处理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：平成30年12月4日（火） 10:00～11:45

場所：一般財団法人 日本環境衛生センター 東京事務所

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学大学院 環境科学研究科 教授	吉岡 敏明

オブザーバー

福島県生活環境部一般廃棄物課 主幹	濱津 ひろみ
東京二十三区清掃一部事務組合 杉並清掃工場	箆島 保

議事要旨

I 本日の議事

1. 富岡町対策地域内廃棄物処理業務（破碎選別、減容化处理）処理実績について
2. 富岡町対策地域内廃棄物処理業務（破碎選別、減容化处理）解体・撤去工事について

II 検討内容

1. 富岡町対策地域内廃棄物処理業務（破碎選別、減容化处理）処理実績について
冒頭、MHIEC・鹿島・MHI 共同企業体（以降、MHIEC・鹿島・MHI JVと記載）より、業務内容について説明があった。

(1) オーバーホールの実施について

委員より、2号炉は平成29年度にオーバーホールを実施しているが、事業開始当初から予定していたのかとの質問があった。MHIEC・鹿島・MHI JVより、当初の予定にはなかったが、2号炉の運転期間が延長になったことから、延長期間中の処理を適切に行うためにオーバーホールを実施したとの回答があった。

(2) 焼却炉の運転について

委員より、焼却炉の運転は連続的だったのか、あるいは立上げ、立下げを繰り返していたのかとの質問があった。MHIEC・鹿島・MHI JV より、焼却炉は連続運転を基本としていたが、廃棄物の搬入状況に応じて立上げ、立下げを実施したとの回答があった。

(3) 作業者の被ばく量の集計方法について

委員より、個人線量計で測定した作業者の被ばく量は、作業内容や作業場所で異なることから、施設全体として集計して評価するのではなく、作業内容等に応じて集計した方が良いとの助言があった。

2. 富岡町対策地域内廃棄物処理業務（破砕選別、減容化处理）解体・撤去工事について

冒頭、MHIEC・鹿島・MHI 共同企業体（以降、MHIEC・鹿島・MHI JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 放射線管理区域の換気について

委員より、放射線管理区域の換気に用いるフィルタの種類とその廃棄方法について質問があった。MHIEC・鹿島・MHI JV より、放射線管理区域の換気にはHEPA フィルタを使用しており、使用後はフィルタの放射性物質濃度を分析し、適切に処理するとの回答があった。

(2) 解体により発生する廃棄物のリサイクルについて

委員より、解体作業に伴い発生する金属やコンクリートくず等は量が多いので、放射性物質濃度の測定結果を活用して、適切に分別し、リサイクルする等の対応が望ましいとの助言があった。

(3) 解体作業前に実施する高圧洗浄による除染方法について

委員より、解体作業前に実施する高圧洗浄は施設内に対し一様に行うのかとの質問があった。MHIEC・鹿島・MHI JV より、焼却炉とガス冷却室には耐火物が施工されているため、高圧洗浄を重点的に行う予定であるとの回答があった。

以上